

学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」



学校だより え の き 11月号



皆野町立皆野小学校 令和7年11月1日 発行

「Origin(オリジン)を持つ」

校長 吉田 浩

先日、世界的文化遺産として有名な、スペインの未完成の大聖堂「サグラダ・ファミリア」の彫刻の作成に、1978年から47年間携わっている彫刻家 外尾 悦郎氏（右写真）の講演を拝聴しました。



その外尾氏が、サグラダ・ファミリアの彫刻に携わる唯一の日本人として、幾多の困難に立ち向かう活力となったのは、故郷で培った「origin」がベースとなっているとおっしゃっていました。

「origin」とは、物事の始まりや由来を示す言葉であり、文化やアイデア等の根源を説明する際に使われます。また、人の出身地や家柄を指すこともあります。その「origin」を強く持つことで、世界に出て行った時でも、自信をもって仕事をする事ができているそうです。

ガウディ亡き後も脈々と続いている制作の中で、現在は外尾氏がその方向性を決めることが多く、その時に、「人間誰一人として同じ人は存在せず、自分はガウディにはなれない。だからガウディの「origin」を強く思い、つなぐことを大切にしている。」と話されていました。ガウディの「origin」とは「自分が幸せになるには人を幸せにするしかない。」ということだそうです。その「origin」を思いながら制作を進めることで、先のわからない道でも、自信を持って進むことができるそうです。

その後、学校のいじめや不登校についても言及されました。「人間は愛よりジェラシーが強い生き物」ですが、「origin」を強く持つことで、一人一人が強くなり、ジェラシーに負けずにまっすぐでいられるとお話されていました。そして、多様性を受け入れられる子を育てるには、「一人一人が違うことを『喜び、感謝し、許す』ことが大切です。」と語られ、「誰一人として同じ人はいないのだから。」と続けられました。一人一人の違いを理解し、良さを受け止める感性の重要性を感じました。



サグラダ・ファミリア

最後に、強い「origin」を育成するには、子供のころ吸収したものがとても大切であり、学校や地域での学びが「origin」になるべきと話されていました。皆野町そして皆野小で推進している、地域とつながり地域で学ぶ「みなのもがけ」にも通じることを改めて実感しています。学校、そして保護者・地域の皆さんの力を結集して「origin」を持った子どもたちを、育成していきましょう。